

コメ価格は下がるのか？

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

今年も色々なことがありましたが、最大の話は「コメの大幅な値上がり」でしょう。昨年の初め頃には5キロで2,000円強で買えたものが徐々に値上がりし、今年に入ってから急速に値上がりして、ついには5月には4,000円を超え、ブランド米の中には5,000円を越えるものまで出て来ました。昨年の2倍以上……とても庶民の口に入る価格ではありません。

そもそも、なぜこのような価格の暴騰が起きたのか？まず挙げられるのは、需給見通しの間違いです。「今年のコメの作況指数は102%で平年並みです」などと発表されますが、あの数値がいい加減だった……昨今の夏の猛暑で品質の悪い米が増加しても、カメムシなどの害虫の被害で食用にならないクズ米であっても、とにかく一応、収穫量に参入してしまいます。コメ作りをしている農家の人たちに聞くと、昨年の収穫量は平年の7～8割程度だったのではないかとのことです。すでにコメ不足が起こることは分かっていたのですが、それを認めて発表してしまうと批判を浴びるし、国民に不安を与えると考えたのか黙っていました。

しかし現実スーパーの棚からコメが消えれば、余計に不安になります。政府は秋に新米が出回れば品不足は解消すると言っていました。前述のように不作であることはわかっていたのです。秋の収穫期になっても年末になってもコメ不足はますますひどくなり、価格の暴騰も続きました。

従来はコメの流通はJA(全農)が殆どを抑え、仕切っていました。JAとしては農家のためには価格をもう少し上げたいのに、政府は国民の不満を恐れて値上げを認めず価格を低く据え置きました。自主流通米も認められるようにはなりませんが、ごく一部の高品質のコメを求める料亭、レストラン以外はJAより高い価格で農家から買ったコメは売れません。中間流通業者は高く買っても安くしか売れないのでは参入する意欲も出ません。

ところが、昨年コメの価格が上昇し、JAより高い価格で農家から買い取っても利益が出るようになりました。多くの業者が自主流通米の取り扱いに参入し、価格はますます上がっていききました。JAも買い入れ価格を上げないとコメが集まらないので、値上げに動きました。コメの値上がりの原因はJAではなく、むしろ、とぼっちりを食ったと言えます。

小泉農林水産大臣は価格鎮静化のために随意契約という強引な技を使って備蓄米を安い価格で放出しましたが、量が限られているので大した効果は無いと見透かされ、自主流通米の農家からの買取価格は高止まりしています。それどころか、多くの業者はまだ田植えをする前から札束をカバンに詰めて農家を回り、買い集めに走っていました。今年の秋に収穫されるコメも価格は下がることなく、高止まりすることになるでしょう。

生産量を増やすと言っても簡単に出来ることではありません。地力を回復させて耕作放棄地を農地に戻すには2～3年は掛かります。担い手については門戸を開放すれば大手企業が参入し、農地の大規模化も進むでしょう。国に「農地解放」をする意欲があるかどうかです。小泉氏の強引なやり方に対して「ルールを守ってもらわないと……」などと発言する、古い利権から抜け出せない化石のような議員がいるのでは改革への道は遠く、コメの価格は下がらないと思います。下げるには、一時的にでも輸入を増やす必要があるのですが……